

史跡山形城跡 二ノ丸梅の園 発掘調査成果速報

平成25年10月13日（日） 山形市教育委員会社会教育青少年課

調査要項

遺跡名	国指定史跡 山形城跡
所在地	山形市霞城町（霞城公園）
遺跡番号	1番（山形県遺跡地図）
調査期間	平成25年7月1日～10月4日
調査面積	約100㎡
調査原因	史跡山形城跡（霞城公園）二ノ丸梅の園整備事業
遺跡種別	城郭（近世城郭）
時代	近世・近現代
遺構	堀跡
遺物	陶磁器、金属製品など
調査事業の主体	山形市公園緑地課
調査実施の機関	山形市教育委員会
調査担当	山形市教育委員会社会教育青少年課

山形城は最上義光により本丸、二ノ丸、三ノ丸が同心円状に廻る城郭に整備されました。しかしその後、元和8年（1622）に最上氏が改易され鳥居氏が山形城主になると、二ノ丸は大規模に改修されました。それ以後は余り改変されず、鳥居氏時代に形作られた城郭が、今の霞城公園として残されています。このため、最上氏時代の城絵図と最上氏時代以後の城絵図や現在の霞城公園を比べると異なる部分が多くありますが、代表的な箇所が二ノ丸南東部の堀土塁の形状です。最上氏時代の城絵図ではゆるくカーブを描いていますが、現在はほぼ直角に屈曲しています。

今回の発掘調査で、この最上氏時代のゆるくカーブを描いていた堀跡が検出されました。城絵図にある通り、現在の二ノ丸堀の内側に最上氏時代の堀があったことが確認されたので、最上氏時代の城絵図の写実性もある程度証明できたこととなります。

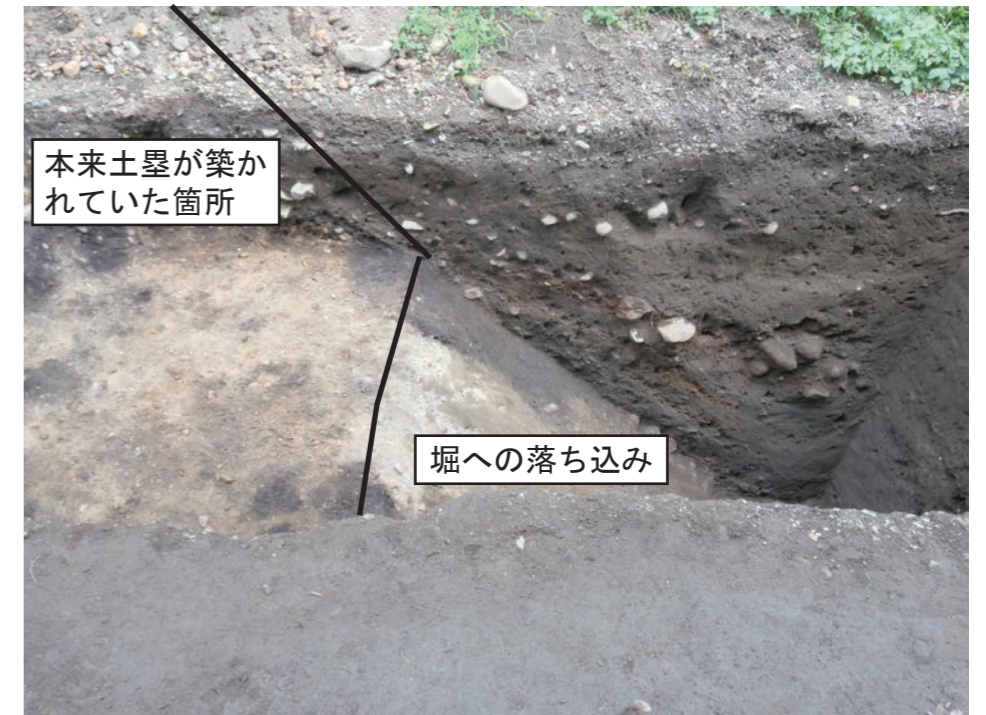


写真1 発掘調査で検出された堀跡

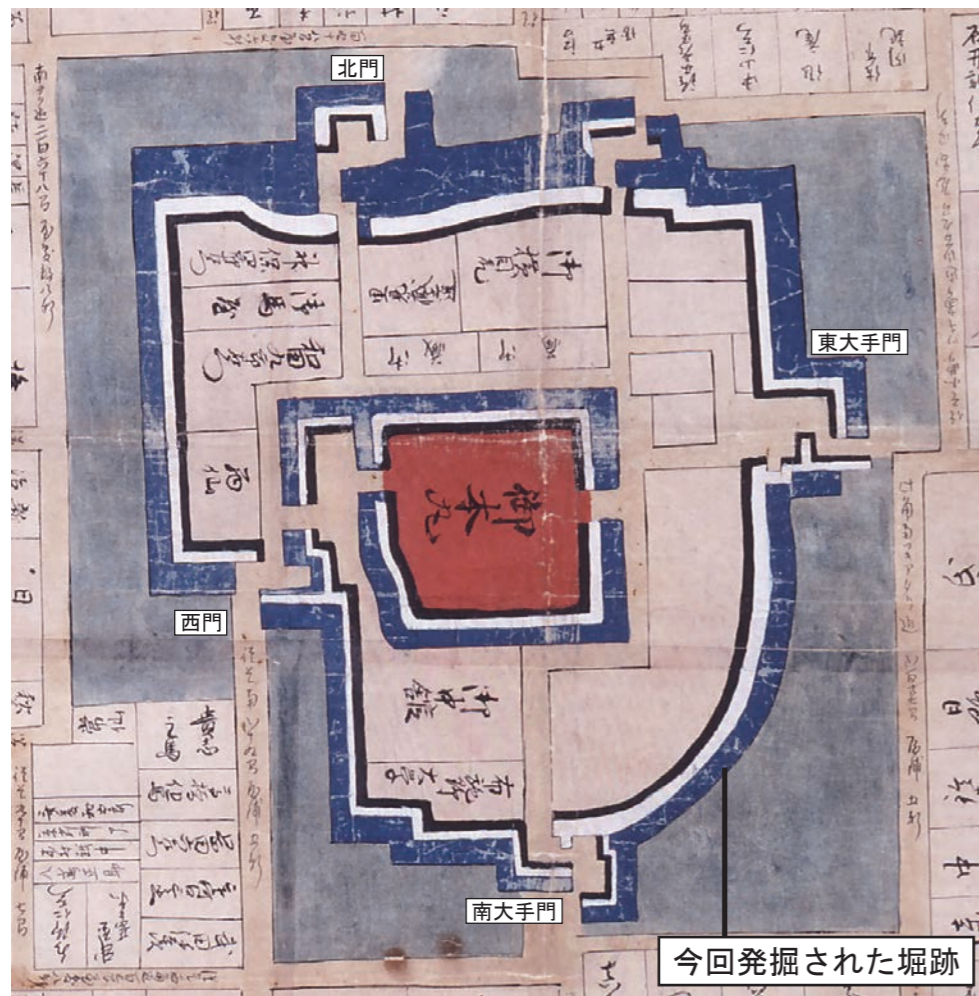


図1 最上氏時代の山形城二ノ丸

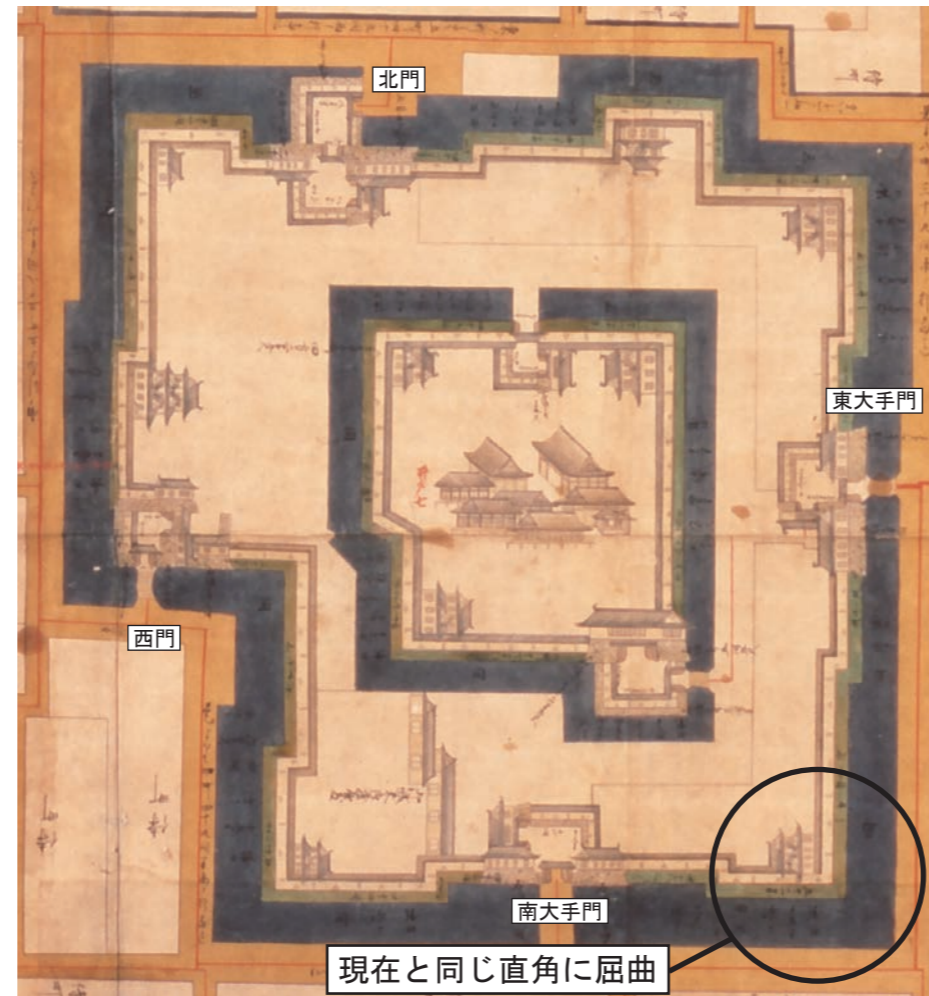


図2 1644年頃の山形城二ノ丸（最上氏改易後約22年後）



写真2 現在の山形城二ノ丸（霞城公園）